

イベントのお知らせ

神田香織 講談「はだしのゲン」

～9歳の少年がみた戦争と原爆の真実～



かんだかおり
神田香織 プロフィール

福島県いわき市出身。二代目神山陽門下生。二つ目以降、ジャズ講談や一人芝居の要素を取り入れた独自の講談を次々発表、講談の新境地を切り開いている。

「はだしのゲン」は中沢啓治氏が自らの被爆体験をもとに太平洋戦争末期から戦後の苦難の時代を力強く生き抜くゲンの姿を通じて反戦反核を訴えたヒット作品です。初演から38年を超え、全国で2万人が感動した神田香織氏の代表作、講談「はだしのゲン」をぜひライブでご覧ください。

【申込み】申込みフォーム▶

☎ 03-3420-0737

setagaya@seikatsusha.net

【主催】世田谷・生活者ネットワーク



2024年7月23日(火) 13:30開演～(13:00開場)

【会場】成城ホール(世田谷区成城6-2-1) 【料金】999円



新庁舎 東棟完成～環境性能にご注目を～

当初の完成予定から9か月遅れ、世田谷区役所新庁舎第1期工事が完成。世田谷区議会も東棟に移動します。本会議場傍聴席は10階、議員控室は8階です。議会のセキュリティが強化されています。控室にご用の際はネット事務所に事前にご連絡ください。

今回工事では、2022年12月補正予算で1億2千万円の追加投資により、窓ガラスと断熱材の仕様を変更され断熱性能向上が実現しました。この投資は、光熱費の削減効果により10年ほどで回収できるとのことです。新本庁舎は世田谷区の庁舎として初めて、設計時の仕様でエネルギー40%減のZEBオリエンテッドの認証を取得しています。生活者ネットワークは、地球沸騰化への対策として区施設の環境性能の更なる向上を求めつづけていきます。

誰もが知りたい、本庁舎の値段？！

1期工事終了時の、遅延損害金16億円が目注されていますが、私たちの税金で作られている新庁舎、最終的にいくらになるのが要チェックです。

当初契約2021年5月時点

総工費：約364.1億円

2023年12月時点

総工費：約407億円

総工費は、資材や資金に合わせたスライド条項により今後上昇する見込みです。



暮らしの中での困りごとなど、お気軽にご相談ください。



- 1 議員は交代制(ローテーション)
- 2 議員報酬は市民の政治活動資金に
- 3 選挙はカンパとボランティアで

☎ 03-3420-0737

世田谷・生活者ネットワークHPからもお問い合わせいただけます。

生活者 No.210
せたがや

世田谷・生活者ネットワーク

2024年4月20日号
【編集・発行】世田谷・生活者ネットワーク
代表／高岡真子
〒154-0017 東京都世田谷区
世田谷1-12-14 京ビル2階
TEL: 03-3420-0737
FAX: 03-3706-1744
email: setagaya@seikatsusha.net
https://setagaya.seikatsusha.me



地域政党の
役割について
中学生とおしゃべり
中のおみずき

女性たちがつないできた 地域政党「生活者ネットワーク」

民主主義ユースフェスティバル2024で
アピールしました!



『民主主義教育』
パネルディスカッションに
関口江利子が登場

民主主義ユースフェスティバルとは？

日本若者協議会が主催する「民主主義ユースフェスティバル2024」が、3月23日、24日の2日間にわたって、駒沢オリンピック公園にて開催されました。『日本では、政治や社会課題について気軽に話せる場が少なく、特に政治家と対話する文化がない』と感じた若年世代の当事者を中心に企画・運営されています。

FIFTYS PROJECT
ブースにて、他自治体の若手女性議員の仲間たち▶



コラム

「民主主義教育」パネルディスカッションに登場 学校から政治を身近に

中・高校教諭と高校生の4人で、政治がいかに身近なものであるかを学校現場で伝えていくことの重要性、参加していくことで「政治=生活そのもの」だと結びつき意見表明につながる等々、熱い議論を交わしました。ノルウェーでは様々な考えを持った政治家と対話することは当たり前で、国が政党にユース部の設置を義務付けているため若者の受け皿も

若者と女性のエンパワーメントへ！

今回は地域政党「東京・生活者ネットワーク」も選挙小屋(=超党派の政治家と気軽に対話できる場)を出し、世田谷区議の関口、おの2人が参加。ブースには中高生や大学生を中心にたくさんの人が訪れ、生活者ネットが40年以上にわたって女性議員を地方議会に送り続けてきたことを知ってもらうとともに、ジェンダー平等や子どもの権利等、私たちが取り組んできた政策テーマについて活発な意見交換や対話ができました。

本イベントの企画の一環で「U25模擬選挙」というユニークな取組みも行われました。おの・関口の活動に共鳴してくれた女子高校生や女子大学生が、この企画に参加しており、彼女たちの政見放送は現職議員顔負けのとても素晴らしいものでした。日常の議員活動を通じて、微力ながらこれからの未来を担う若い女性たちのエンパワーメントに貢献できたのではと心から嬉しい出来事でした。

用意されていると、留学経験のある高校生から紹介がありました。日本では政治家が学校現場で話す場はもちろん、公的に若者と対話する場も皆無です。政治は「もともとわたしたちのもの」だと改めて確認する機会となりました。

関口江利子

詳しくはココロ動画の配信で▶
(1:30ごろから「民主主義教育」)



世田谷・生活者ネットワーク



あのeyes!

災害への備えを強化

公約一部
実現!

1 すべての障がい児者を見落とさない 情報共有の仕組みづくりを!

世田谷区では、介護度や障がいの重い方に向けて「個別避難計画」の作成をすすめています。対象から外れる障がい児者がいます。「個別避難計画がない障がい児者」が発災後、困難な状態に陥っても支援から取り残される可能性を指摘し、区も認めました。災害時のサービス提供について事業者の理解を進めるとともに、情報共有の仕組みづくりについて、関係支援機関等で検討することになりました。



関口江利子

福祉保健常任委員
推進特別委員
子ども・若者施策

2024年2月20日～3月27日【第1回定例会】
『令和6年度予算』の審議は災害対策が焦点
私たちの注目ポイントは
こんな感じ!



おのみずき

区民生活常任委員
環境・災害・防犯
特別委員
環
境
・
災
害
・
防
犯
等
問
題
対
策

あのeyes!

防災分野でもジェンダー主流化を

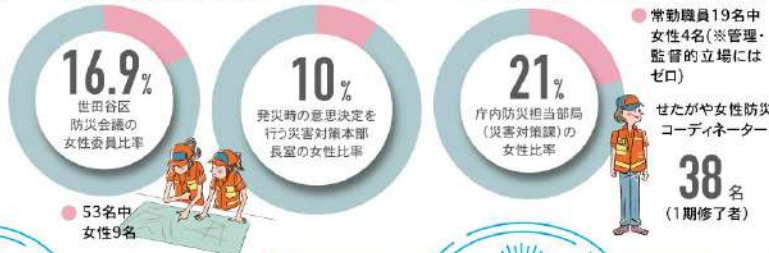


元旦に発生した能登半島地震では、避難所運営をはじめ、依然として災害時対応に女性たちのニーズやジェンダーの視点が十分に反映されていない実態が浮き彫りになりました。原因として、防災・災害対応の現場・意思決定の場ともに、女性や多様な人の参画が進んでいない現状があります。これは世田谷区も全く他人事ではありません。

改善に向けた取組みの一つに「せたがや女性防災コーディネーター」の養成があります。区は今年度から4年間で毎年20名、計80名の追加的な養成計画を決めました。区内95箇所の指定避難所への配置必要性に対して悠長すぎる点を指摘し、計画の迅速化を求めました。なお、今年度予定されている2期生養成と500名以上の区民への地域啓発研修の実施に係る予算額はたったの186万円…!この中に、研修講師を務める女性防災コーディネーターへの謝礼(交通費込で4,000円/回)も含まれます。活動継続のために、金銭的な保障の在り方も今一度検討するよう強く要望しました。

世田谷区の場合

- 1 防災・復興の意志決定への参画状況
- 2 防災・復興の現場への参画状況



2 本当に役立つ防災情報について

世田谷区は対象者を絞った個別の冊子を発行していますが、種類が多いことと情報が古いものもあることを指摘しました。区は、「特に「高齢者・障がい者」向けの冊子は、喫緊に更新が必要であると認識している」とし、当事者の意見も反映させるとともに、定期的な更新を行うタイミングについても検討することになりました。



地域の防災訓練に参加する関口江利子



みんなの声を
議事に
届けるよ!

18番 おのみずき
旧庁会議場での最後の1枚



あのeyes!

すべての子どもが 地域の学校へ通う インクルーシブ教育の推進

障がいのあるなしに関係なく子どもたちが同じ教室で同じ教育を受け、給食や掃除当番など何気ない活動と一緒にいることが、お互いを尊重しあえることに通じますが、世田谷では実践できていません。また、住んでいる地域の学校に通うことで、放課後の公園や地元のお祭りなどでつながりをつくるチャンスが広がり、住み慣れた地域で暮らし続けるための土壌を育むこととなりますが、特別支援学級は区立小中学校の1/3しか設置されていません。子ども一人ひとりの教育ニーズに対応し、すべての子どもたちが「共に学び・共に育つ」ことを強く要望しました。

教育委員会からは、各学校での特別支援学級設置の必要性を認めつつも整備については「方向性を検討する」に留まりました。その子の特性を先生が認め、一人ひとりに合った授業の受け方や方法について求めたところ、「学校の柔軟な対応や支援を推進する」との答弁がありました。

今年度は世田谷区子ども条例改正の年でもあり「子どもの権利」についてより一層力を入れ、取り上げていきます。



あのeyes!

介護の質の低下・家族 介護の過重を許さない

最後まで住み慣れた地域で住み続けたい、そんなニーズを支えるのは自宅を訪問して生活を支える訪問介護サービスですが、訪問介護従事者の不足は非常に深刻です。このままでは、介護の質の低下・家族介護の過重・ヤングケアラーの増加に強い危機感があります。

私たちは、国に対して従事者の処遇改善につながる介護保険の基本報酬の引き上げを求め続けていますが、実現できていません。国が策を講じないのなら、世田谷区独自の支援を実施し、またすでにある支援も強化することを強く求めました。資格取得の受講料については、現状の9割助成から全額補助を検討する前向きな答弁があった一方、今回の介護保険の改正で苦境に立たされる訪問介護事業者への支援は国や都の有益な情報の発信などにとどまり、じつに不甲斐ない答弁でした。訪問のヘルパーが不足するということは、高齢者だけではなく、障がい児者・子育て家庭へのケアも危ぶまれるということです。介護離職・介護自殺も増えている現実をもっと真剣に捉えなければいけません。今後も現場から声をあげ続けます。



公約
実現!

あのeyes!

世田谷版気候市民会議の 実施が決まりました!

世田谷区民の皆さん、大変お待たせしました! ついに世田谷区で、気候市民会議が実施されることが決定しました。気候市民会議とは「くじ引き等の方法により、社会全体の縮図となるように参加者を集めて熟議を重ね、その結果を政策決定などに用いる手法」の一つです。2019年から欧州を中心に急速に拡大し、日本でも札幌市や武蔵野市など、すでに複数の自治体が実施しています。

脱炭素社会への転換には、すべての人の暮らしに関わる大きな変化が必要ですが、誰も「正解」を知りません。つまり、私たち一人ひとりが問題を知り、ともに考え、話し合う余地がたくさんあるのです。今年度実施予定の「世田谷版気候市民会議」に係る予算額は500万円。この予算を最大限有効に活用し、特に子ども・若者が自分の未来への選択に直接関わる経験を得られるよう、引き続き制度設計の在り方をチェックしていきます。



公約一部
実現!

あのeyes!

区独自の給付型奨学金 が実施されます!

今年度より、区内の生活保護世帯出身の大学生等を対象に、区独自の給付型奨学金が新たにスタートします! 従来は「せたがや若者フェアスタート事業」の下で、児童養護施設や里親等の元を巣立った若者への支援の一環で給付型奨学金が実施されていましたが、支給対象を広げたことになります。年間50万円(上限)の学費に加え、教材費・交通費が実費で支給されるので、学費負担が苦しい対象世帯の方は、ぜひ区のHP等で申込手続きをチェックしてみてください。

一方で、今定例会では、おのを含む各会派が給付型奨学金制度の更なる拡充が求めました。実際に、昨年区が実施した「若者調査」によると、学生でアルバイト等の収入を得るための活動をしている割合は43.8%に上り、内9.2%が得られた収入を学費に充てているそうです。国が完全な高等教育無償化を実現するまで、更なる区独自の学費負担軽減策が講じられるよう、引き続き追及していきます。